

[CASE 07]

い が ら し ま な ほ 五十嵐 愛穂さん

小国町女性消防団

同じ思いを共有する仲間と もっと町づくりに貢献したい



3

年前に小国町役場へ就職した五十嵐さんは、同じタイミングで消防団にも入団しました。

「私の母が元公民館の職員で、父も消防団員でした。幼い頃から地域活動に貢献する両親の姿を見て育ったので、自然と私も町づくりに携わりたいという思いが芽生えて。消防団員になれば、より町に関われると思って入団したんです。」

しかし入団と時を同じくしてコロナ禍が始まり、消防団活動も見直されるなかであっても、啓発活動や行事運営のサポートに尽力してきましたと言います。

「思うように活動ができていないのは心苦しいですが、入団して人間関係の輪を広げられたことが嬉しいです。職場の先輩にも消防団員の方は多く、仕事の相談などもしやすくなりました。」

さまざまな職業・立場からなる、消防団の仲間は、町を守りたいという思いを共有しています。共に暮らす町のために力を合わせる仲間との時間は、五十嵐さんの生活の一部になっています。

Q1 どんな活動をしていますか？

この3年間での主な活動は、出初式の運営サポートやチラシを配る広報活動でした。本来は紙芝居をしたり高齢者の方を訪問したりといった活動もあるので、私もぜひ参加したいと思っています。一度、団員の親睦を深めるためのレクリエーション大会にも参加したことがありましたよ。



Q2 女性でも無理なく続けられますか？

消防団は有志の集まりなので、もともと何かを強制されるものではありません。たとえば無理に力仕事を頼まれるといったことは無いと思います。どうしても消防団という男性のイメージが強いかもしれませんが、小国町ではおよそ20名の女性団員が活躍中です。



まだまだ知らない方も多いと思いますが、たくさんの女性が消防団として活躍していますよ！



1

2

3

4

1. 高齢者のお宅を訪問し、報知器の点検などを呼びかけます
2. 応急手当講習の様子。緊急の場面では迅速な対応が求められます
3. 町内の商業施設などでの広報活動。年に2回ほど実施しています
4. 五十嵐さんは産業振興課に所属。小国町の魅力発信に努めています